

2024年6月11日



Suido Kiko

2024年3月期 決算説明資料

代表取締役社長

古川 徹

【東証スタンダード：6403】

Copyright © 2024 Suido Kiko Kaisha, LTD.

水道機工株式会社

目次

1. 水道機工グループ概要について
2. 2024年3月期連結業績概要
3. 2025年3月期連結業績・配当予想
4. 中期経営計画（2023～2025年度）の概要
並びに進捗状況

1. 水道機エグループ概要について

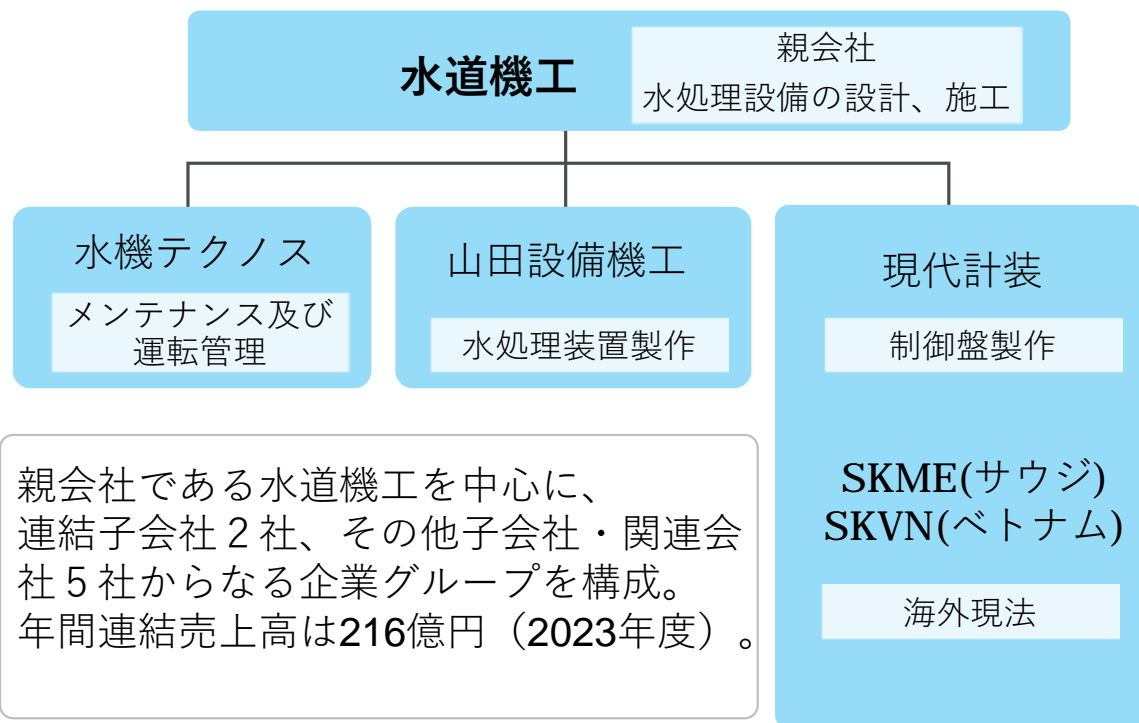
沿革

水道機工の沿革

- 1924年8月 東京都中央区八重洲において株式会社エル・レイボルド商館内に
当社の母体となった都市工業部が発足し、ドイツ製水処理機械の輸入を開始。
- 1936年1月 東京都大田区羽田において資本金5万円の日本温泉管株式会社を創立。
- 1946年12月 商号を水道機工株式会社と変更し、水道施設を主体とした
水処理機械・装置全般の事業展開本格化。
東京都世田谷区に世田谷工場（現・本社）竣工。(同年8月)
- 1962年8月 水道機工サービス販売株式会社（現・連結子会社水機テクノス）を設立。
- 2002年9月 東レ株式会社と資本業務提携。2004年8月に親会社となる。
- 2006～14年 SKME(2006年)、SKVN（2014年）海外現地法人設立。
- 2020～21年 山田設備機工、現代計装を子会社化。
- 2021年6月 水道機工グループ企業理念・ビジョンを制定。
- 2024年8月 創業100周年を迎える。

グループ会社

グループ会社構成紹介

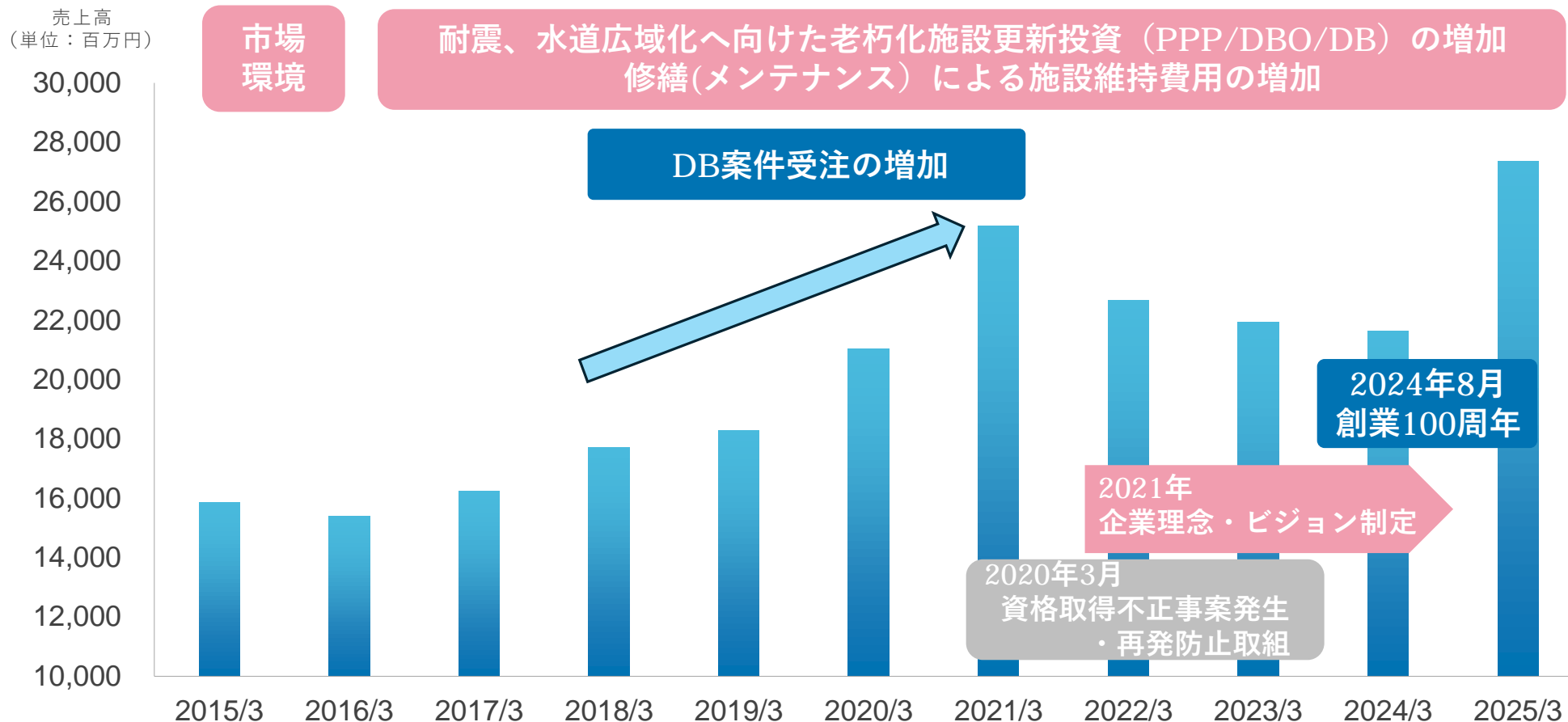


従業員数（2024年3月31日現在）

	人数
連結グループ合計	581
水道機工(株)	245
(株)水機テクノス他連結子会社	336

上記のうち、
技術系従業員は、**300名超**。

最近10年の歩み



水道機工グループサマリー

1. 水道機工グループ事業概要

総合水処理エンジニアリンググループ

～生活に欠かすことの出来ない**水を通じ社会に貢献**～

- ・ 全国自治体を中心に、各浄水場への多様な浄水設備を納入。
- ・ 浄水場の建設工事から、メンテナンス、運転管理に至るまでワンストップで対応可能。

「100年先を見据えて持続可能性(サステナビリティ)を追求」

- ・ 企業理念とビジョンをベースとしてビジネスを展開

水道機工グループ 企業理念

100年先も人と地球
をつなぐ情熱で、
笑顔あふれる環境を
技術と製品で創造し、
社会に貢献します。

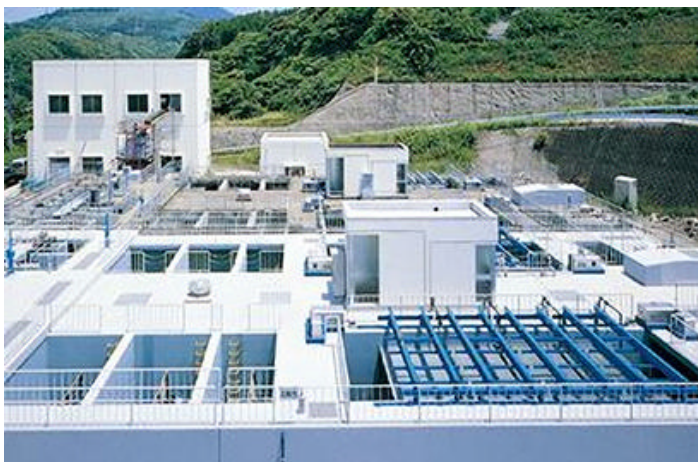


水道機工グループサマリー

2. 主要事業紹介

主に全国の浄水施設に対し、水処理プラントの設計、調達、施工、運転管理、メンテナンスに至るまでのサービスを自治体向けに提供

その中核を担う「水道機工」は、**2024年**に創業**100周年**を迎え、創業以来多彩な技術・製品をもとに安全でおいしい水の供給に貢献しています。



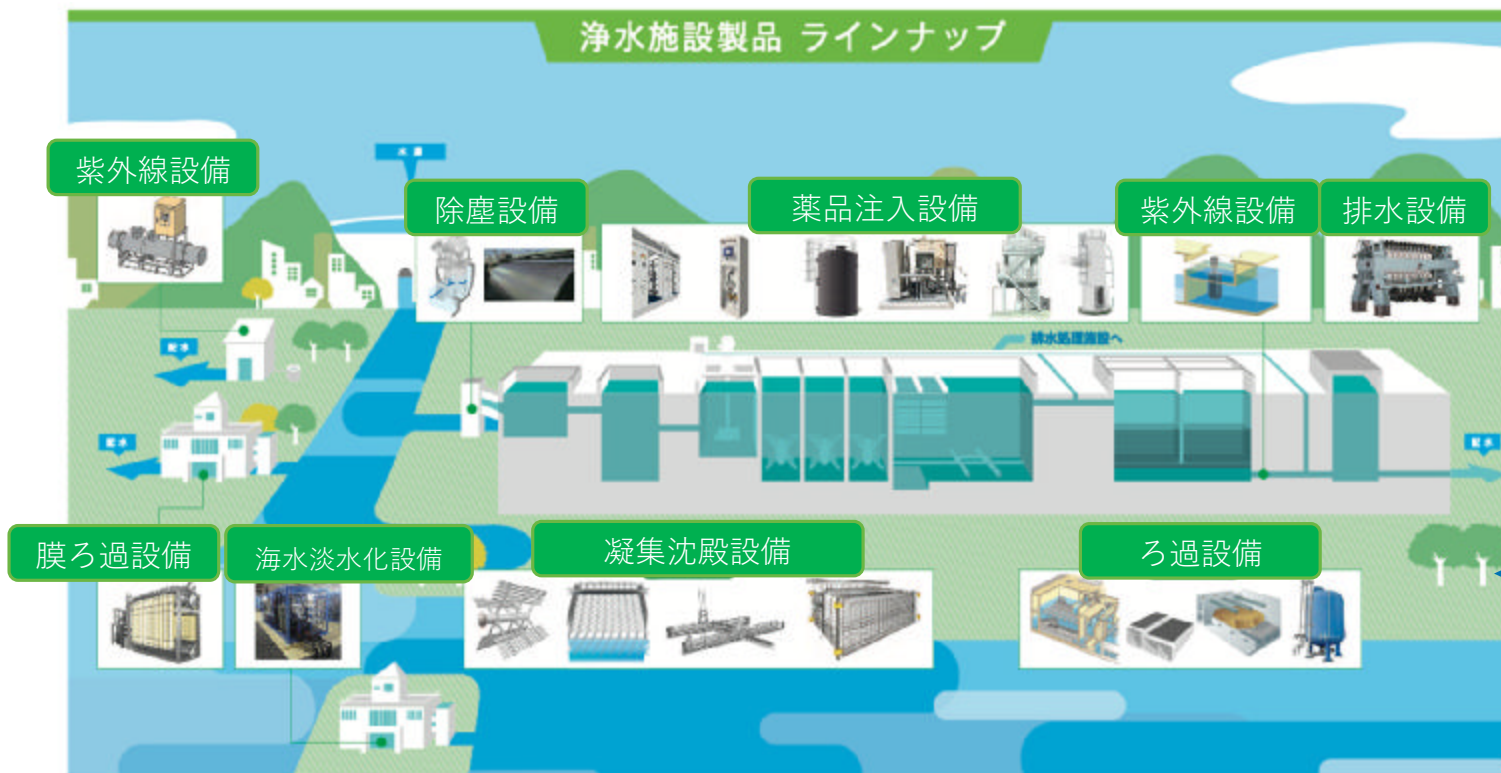
浄水施設(浄水場)の全景



浄水施設(膜処理設備)の全景

水道機工グループサマリー

3. 浄水施設と当社製品ラインナップ



**水道機工グループ
企業理念**
100年先も人と地球を
つなぐ情熱で、
笑顔あふれる環境を
技術と製品で創造し、
社会に貢献します。

当社グループは、
浄水施設をトータルで
サポートできる
製品ラインナップを
保有しています。

水道機工グループサマリー

4. 水道機工グループの事業セグメント

上下水道事業

- ① 上下水道施設向け浄水処理設備等の製造、販売
- ② 納入設備のO&M(メンテナンス、運転管理)

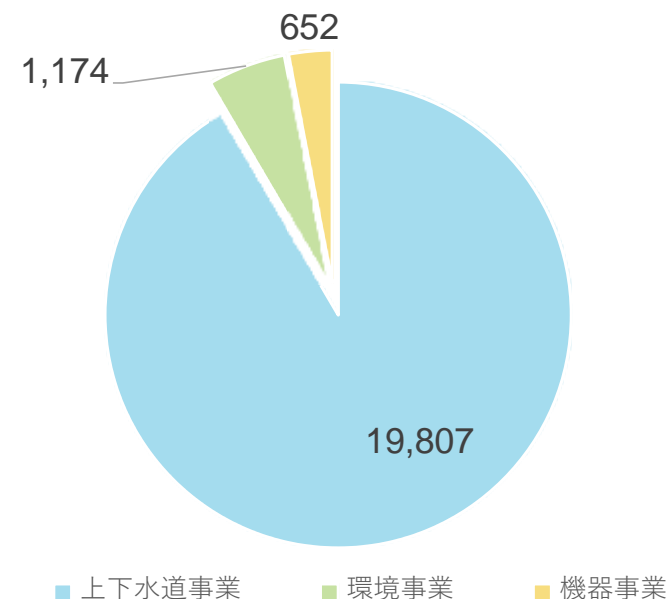
環境事業

民間の産業用廃水施設等の製造、メンテナンス

機器事業

薬品注入装置および災害用浄水装置等の製造、販売

セグメント別売上高(2024/3)
(単位：百万円)



市場環境認識

現状と課題

1. 浄水場老朽化進行
更新整備が必要
耐用年数を超える施設が増加
2. 自治体等の財政難により
更新予算の確保困難
従来方式での発注困難
水道供給維持の投資先送り
3. 自治体職員の減少
水道への対応リソースの不足

環境変化の状況

水道広域化による施設更新 DB/DBO(*1)への発注方式変化

官民連携の流れから新たな発注方式が増加
(コンセッションを含む)

ウォーターPPP(*2)による官民連携、長期包括契約の
推進

浄水施設維持のための メンテナンスでの対応

水道施設のメンテナンスで施設維持を図る

市場予測

PPP/DBO/DB
等による
新たな更新市場
拡大

メンテナンス
市場の増加

*1. DB/DBO: Design Build (設計・建設一括発注方式)/ Design Build Operation(設計・建設・運転管理一括発注方式)

*2. 国土交通省による上下水道インフラ更新整備のためのアクションプラン。PPPはPublic Private Partnershipの略。

市場規模・競合状況

浄水場水処理設備（機械）の施設更新市場規模は年間で約**1000億円**(当社想定)
(参考) 全国の水道事業者数：約**1400事業者**(*1)、浄水場数：約**3800ヶ所**(*2)

政令指定都市では**50%**を超える水道事業者への納入実績あり

市場シェアは概ね**20～30%**程度（当社想定）

当社グループの強み：

- 1. 地方自治体が運営する水道事業における知名度ならびに顧客基盤を有する
- 2. 水道水を造る施設である浄水場の主要構成設備を全て提供可能な技術を保有
- 3. グループで浄水場の水処理設備建設から運転管理、メンテナンスへの対応が可能

主な競合会社：月島HD、前澤工業、メタウォーター、クボタ、水ing etc

*1. 上水道事業および水道用水供給事業を対象。*2. 上水道事業および水道用水供給事業のうち緩速ろ過、急速ろ過、膜ろ過方式の浄水場を対象。

2. 2024年3月期連結業績概要

業績ハイライト 2024年3月期連結業績

売上高

21,634百万円

前期比 1.3%減

営業利益

450百万円

前期比 40.9%減

経常利益

661百万円

前期比 61.6%増

親会社株主に
帰属する当期純利益

367百万円

前期比 34.3%増

受注高

24,529百万円

前期比 24.7%減

受注残高

39,511百万円

前期比 7.7%増

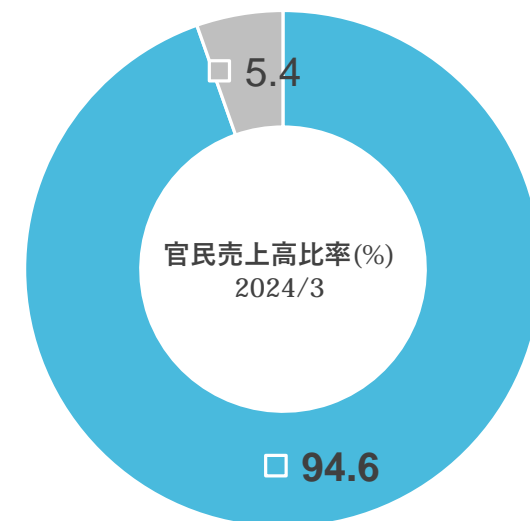
2024年3月期連結損益・受注高および受注残高概要

	2023/3 (百万円)	2024/3 (百万円)	前年比 (%)
売上高	21,929	21,634	▲1.3
営業利益	761	450	▲40.9
経常利益	409	661	+61.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	273	367	+34.3
受注高	32,588	24,529	▲24.7
受注残高	36,698	39,511	+7.7

- 売上高：工事着工遅延による工事出来高減少も前年並みを維持。
- 営業利益：工事採算改善するも、事業拡大・管理強化での要員拡充による人件費増加などで減益。
- 経常利益：関連会社のSKME社(*)での持分法による投資損失減少、為替差益増加により増益。
- 親会社株主に帰属する当期純利益：法人税等調整額が増加したものの経常利益増により増益。

2024年3月期セグメント別動向

		2023/3 (百万円)	2024/3 (百万円)	前年比 (%)
上下水道事業	受注高	30,919	20,685	▲33.1
	売上高	20,643	19,807	▲4.1
	営業利益	809	451	▲44.2
環境事業	受注高	952	3,059	+221.3
	売上高	597	1,174	+96.5
	営業利益	▲111	▲35	-
機器事業	受注高	717	784	+9.4
	売上高	687	652	▲5.1
	営業利益	63	33	▲47.3



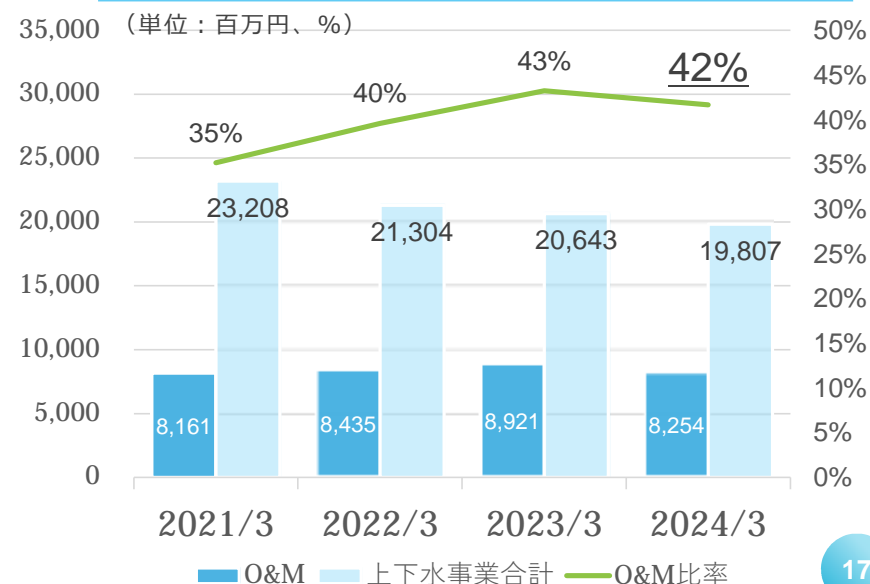
凡例
■ 官公庁(上下水道事業 + 機器事業)
■ 民間(環境事業)

2024年3月期セグメント別動向（上下水道事業詳細）

- 上下水道事業のうち「O&M(メンテナンス・運転管理)」を中期経営計画における注力分野として区分。
* 2024年度より「O&M」および「プラント建設工事」として区分しセグメントの変更を予定。
- 上下水道事業のO&Mは、大型DB案件受注減少で上下水道事業が全体で売上減となる中で、堅調に推移。
- O&Mでの収益が上下水道事業の4割超を占め、増加傾向にある。
- 2030年度に”O&M”での収益をグループ全体の6割とする目標とし、収益の安定化を目指す。

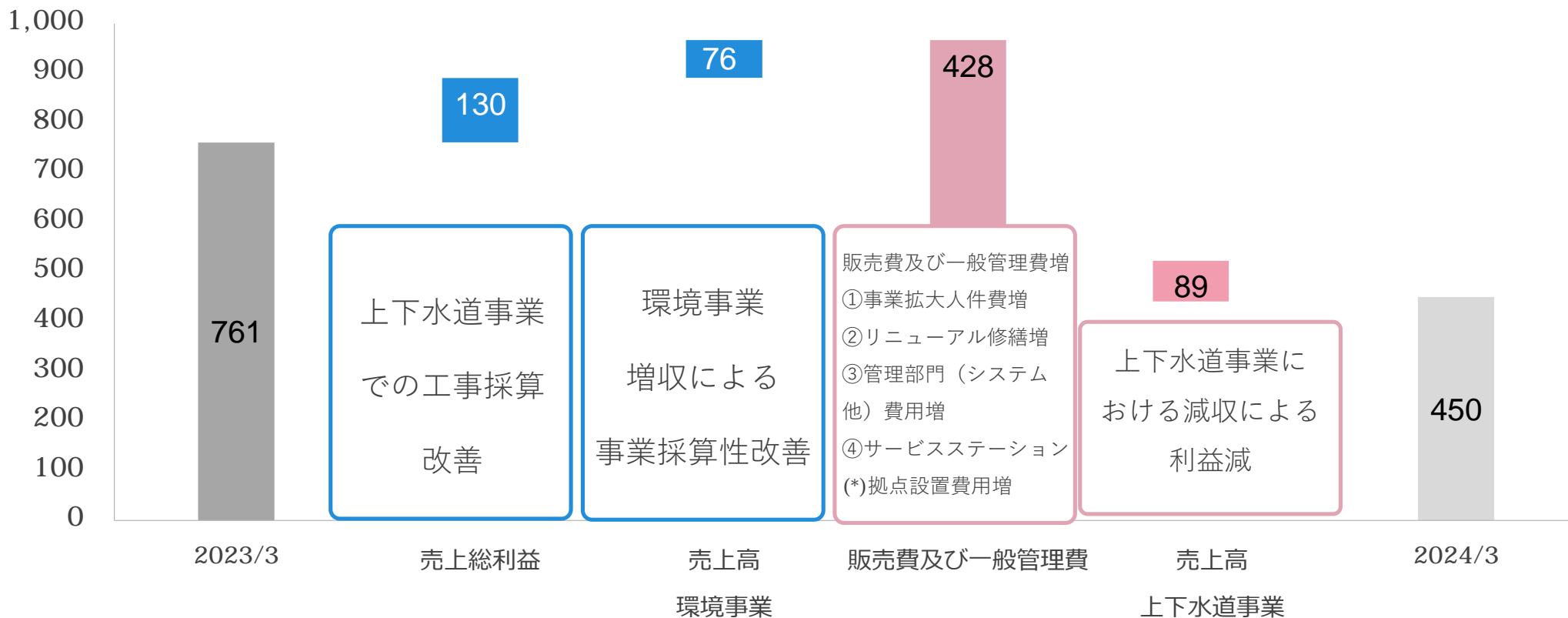
		2023/3 (百万円)	2024/3 (百万円)	前年比 (%)	
上下水道事業	合計	受注高	30,919	▲33.1	
		売上高	20,643	▲4.1	
		営業利益	809	451	▲44.2
	上記のうち O&M (メンテナンス・運転管理)	受注高	9,085	10,405	+14.5
		売上高	8,921	8,254	▲7.5
		営業利益	353	291	▲17.6

上下水道事業におけるO&Mの過去推移



営業利益増減分析（実績）

（単位：百万円）



*既存納入顧客へのメンテナンスに即対応可能な技術サービス要員を配置した拠点

上下水道事業における主要契約案件（2024年3月期）

建設・更新工事契約

発注者	契約名	備考	契約工期
山口市上下水道局	柳井田水源地改築工事	40億円(JV受注額)	2026年3月
愛知県企業庁	豊田浄水場次亜注入設備（機械）更新工事	7億円(単独受注)	2026年2月

包括委託・運転管理委託契約

発注者	契約名	備考	契約期間
熱海市公営企業部	熱海市水道・温泉施設保守管理業務委託	既契約の更新	2024年度から5年間
伊賀市上下水道局	伊賀市ゆめが丘浄水場他運転管理業務委託	既契約の更新	2024年度から5年間
千葉県企業局	袖ヶ浦浄水場外包括的業務委託	既契約の更新	2024年度から5年間

3. 2025年3月期連結業績・配当予想

2025年3月期連結損益予想

	2024/3 (百万円)	2025/3(予想) (百万円)	前年比 (%)
売上高	21,634	27,350	+26.4
営業利益	450	1,100	+144.4
経常利益	661	1,100	+66.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	367	700	+90.4

- 浄水場等水道インフラの老朽化に伴う更新、修繕のニーズは引き続き堅調に推移する見通し。
- 2024年3月期末時点において、契約済み案件の受注残高は、395億11百万円と過去最高額となり契約済み案件の施工、引き渡しを行うことで収益の実現を着実に図る。
- これらの結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも増益の見通し。

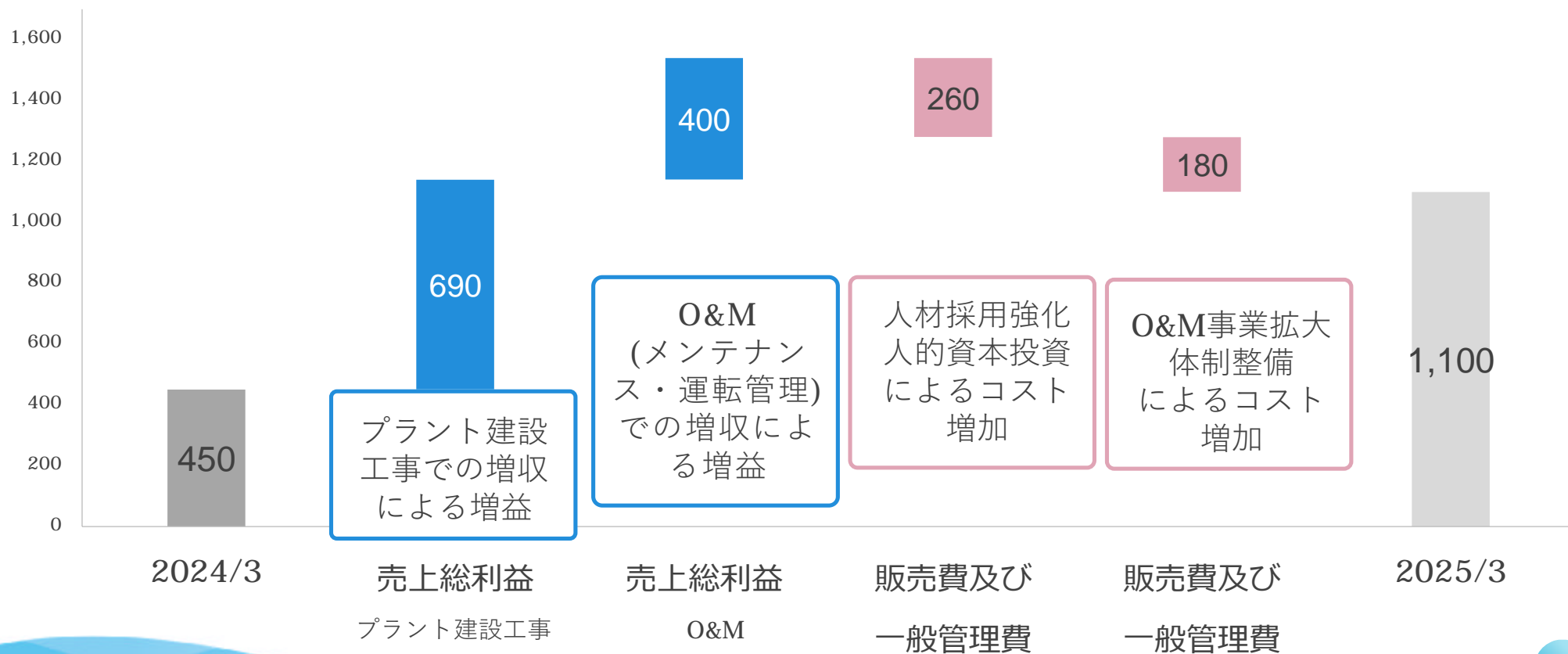
2025年3月期セグメント別予想

建設・更新での契約済み案件の施工、引き渡し、ならびにO&Mにおけるメンテナンス案件受注増加による増収で営業利益の増益を見込む。

		2024/3 (百万円)	2025/3(予想) (百万円)	構成比率 (%)	前年比 (%)
全社	売上高	21,634	27,350	100.0	+26.4
	営業利益	450	1,100	100.0	+144.4
プラント建設工事	売上高	13,380	17,500	64.0	+30.8
	営業利益	159	600	54.5	+277.4
O&M (メンテナンス・ 運転管理)	売上高	8,254	9,850	36.0	+19.3
	営業利益	291	500	45.5	+71.8

営業利益増減分析（予想）

（単位：百万円）



設備投資・人的資本投資・減価償却費・研究開発費

	2024/3 (百万円)	2025/3(予想) (百万円)	前年比 (%)
設備投資	277	336	+ 21.3
人的資本投資等	100	150	+ 50.0
減価償却費	156	176	+ 12.8
研究開発費	309	336	+ 8.7

設備投資：設備更新のための投資の他、業務効率化のためのソフトウェア導入や研究開発用途の設備購入などを行ってまいります。

人的資本投資等：DB/DBO対応人材採用・育成、メンテナンス人材採用・育成を進めるほか、建設業の働き方改革のための関連費用、職場環境向上、社員交流促進、社員研修等を行ってまいります。

研究開発費：高効率で安全・安心な水を供給するべく浄水技術の研究及び水処理装置の開発等を行ってまいります。

株主還元方針・配当

基本方針

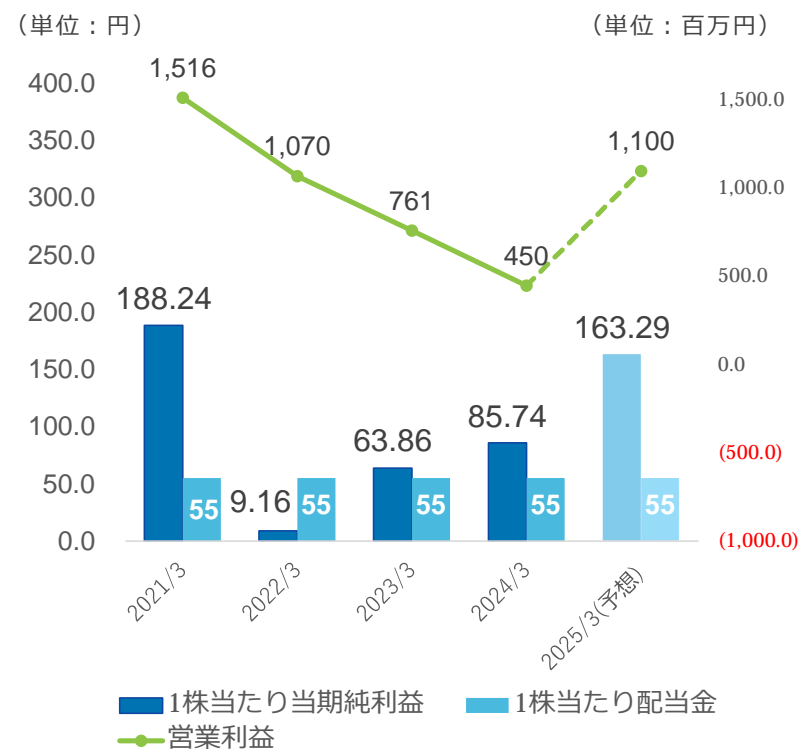
安定配当の継続性を第一義として、業績及び諸指標を勘案し、利益還元を努めることを基本方針

この方針を踏まえた上で、受注環境や営業利益水準を考慮し、1株当たり55円の配当金による株主還元を実施。

2024年3月期の連結配当性向は**64%**(前期**86%**)。1株当たり配当金金額を5年連続で維持、過去3年は配当性向**50%超**で株主還元を実施。

2025年3月期の配当予想は**55円**としております。業績着地に目途が立った段階で、中長期の事業拡大のための投資を踏まえて、配当方針として、配当性向やDOE等の方針指標の適用を検討中。

財務面において、自己資本比率の高さが入札機会の拡大につながることで、また流通株式比率(2024年3月期：**28%**)への影響なども考慮し、当面配当金を中心とした株主還元を努める。



	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3 (予想)
配当性向(%)	29.2	600.4	86.1	64.1	33.7
DOE(%)	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3

各種指標について

各種指標について

中期経営計画の目標値として売上高、営業利益の金額を設定

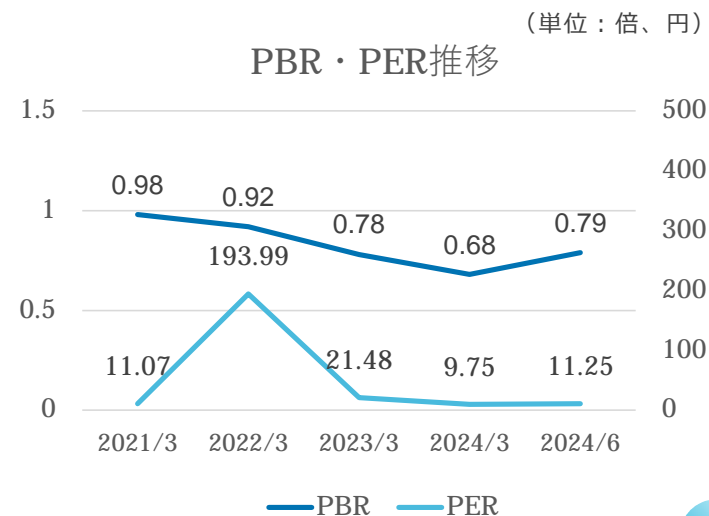
以下の理由から、ROAやROEの目標値は定めず、年度比較などを行うことで変動状況を把握

1. 請負工事主体のため、受注案件の規模や契約形態、支払条件等による総資産の変動要素が大きい
2. 自己資本比率の高さが建設業での経営事項審査の重要指標となる
(負債増加や自己資本減少は自己資本比率低下を招き入札機会の減少につながる)

株価向上に関しましては、以下の取り組みを通じてPBRの改善に努めます。

- ・中期経営計画の着実な実行による収益拡大
- ・決算説明会等を通じた当社グループ事業の認知度向上
- ・中期経営計画・進捗状況に関する定期的な開示

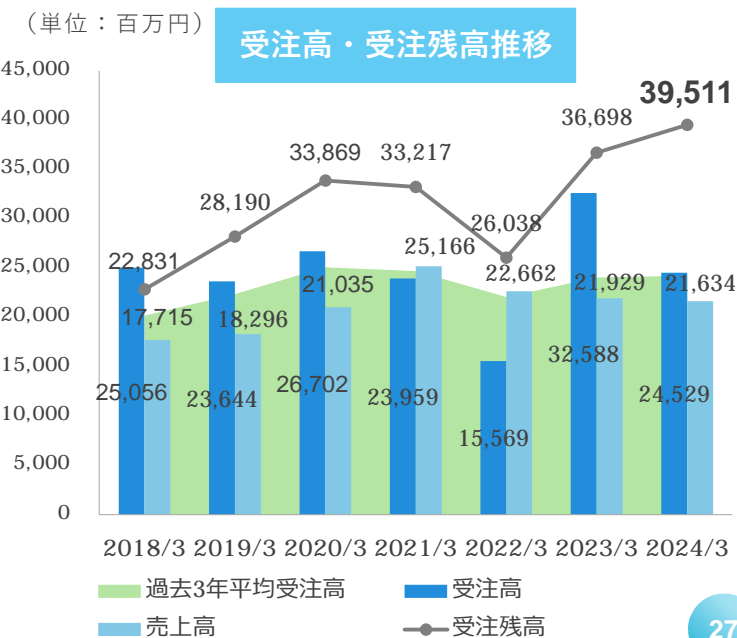
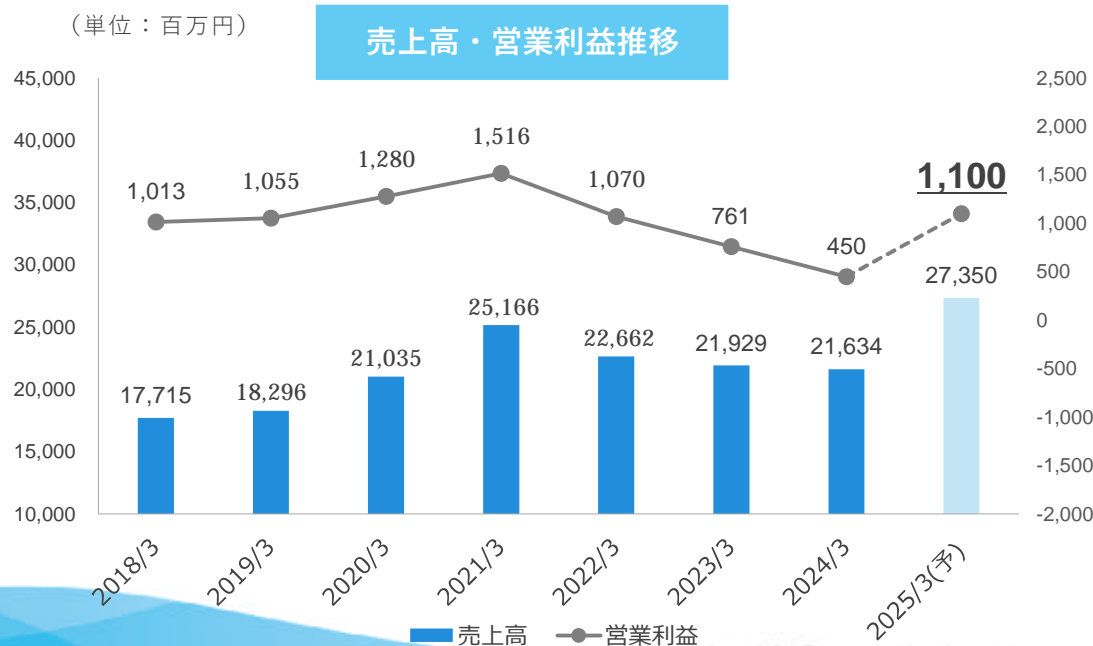
	2023/3	2024/3	備考
営業利益(百万円)	761	450	1,100(2025/3予想)
ROA(総資本経常利益率)	1.9%	2.9%	+1.0p(2023/3比)
ROE(自己資本当期純利益率)	2.8%	3.7%	+0.9p(同上)
PBR(株価純資産倍率)	0.78倍	0.68倍	▲0.1(同上)
PER(株価収益率)	21.48倍	9.75倍	▲8.27(同上)



KPIの推移

連結業績推移

- 当社グループの主要なKPIは営業利益。プラント建設工事での収益増加は、将来の入札機会拡大に必須。
- 受注高は安定し、過去3年間での受注状況から2024年3月期末時点で395億円と過去最高額の受注残高。
- 2025年3月期では、売上高273億50百万円、営業利益11億円として前期比144.4%の増益を見込む。



4. 中期経営計画（2023～2025年度）の概要 並びに進捗状況

企業理念とビジョン

企業理念

100年先も人と地球をつなぐ情熱で、
笑顔あふれる環境を技術と製品で創造し、
社会に貢献します。

ビジョン

- 感謝の気持ちを忘れずに、喜びと感動をお届けします
- 真面目に謙虚にひたむきに、あらゆる課題にこたえます
- パイオニア精神で、感動を共有できるプロ集団を目指します
- 地球に愛されるパートナーとして、きれいな水を追求します

2021年に制定

- ・ 次の100年へ向けたあるべき姿
- ・ ガバナンスの強化
- ・ グループ一体感の醸成

これらの実現に向けた
スタートとして
現行中期経営計画を策定

中期経営計画と事業課題

中期経営計画（2023～2025年）

企業理念に掲げる「社会への貢献」の実現に向け、水道インフラを担うリーディングカンパニーとしての責任と情熱をもとに引き続き事業活動に取り組んで参ります。

当社グループの主力である浄水場における更新にともなう建設市場の減少（＝メンテナンス市場の拡大）と発注方式の多様化という大きな市場環境の変化への対応が主要課題と認識。

1. 主要な中期経営課題

浄水場設備に関する「O&M（メンテナンス・運転管理）」分野における事業拡大を重点施策として、グループ全体での最適かつ効率的な事業運営体制を構築。

既存の浄水場更新・建設における「プラント建設工事」分野での収益力維持を図ることにより将来のメンテナンス基盤を確保。

中期経営計画と事業課題

2. 中期経営課題に対する方針並びに施策

市場予測	中期経営課題	中期経営方針	当面の施策
メンテナンス市場の増加	O&M(メンテナンス(修繕)・運転管理)における事業拡大	浄水場等施設維持のためのメンテナンス対応ニーズが増加 潜在的な既設設備に対するメンテナンスニーズ掘り起しを強化し、 <u>安定的な収益基盤の確立</u> を目指す。	メンテナンス案件受注量拡大 事業基盤・要員体制拡充 メンテナンス対応人材の育成
PPP/DBO/DB等による新たな更新市場拡大	浄水場プラント建設工事における収益力維持	DB市場でのプレゼンス向上により浄水場更新・建設分野での現状収益の維持を図る。	更新案件受注量の維持・確保 事業基盤・要員体制の維持 新製品開発の推進

事業課題に対する方針・施策の進捗状況

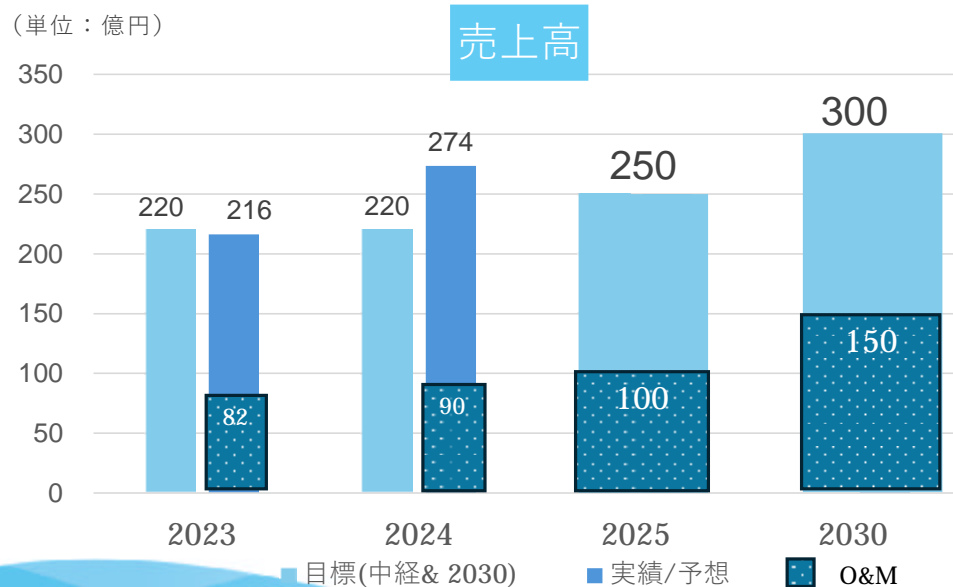
- | | |
|----------------------|--|
| 1. グループ経営・総合力強化 | ▶ グループ全体での諸課題の共有・実行
機能別組織移行へ着手 |
| 2. メンテナンス事業の収益拡大 | ▶ 2030年目標達成に向けサービスステーション(*)の拡充による
基盤作りおよび、人材採用・教育体制の整備 |
| 3. 製造・開発機能の強化 | ▶ 機器事業の生産能力基盤整備及び製造部門と開発部門との融合
による機能強化
厚木製造開発センターの移転を含む開発拠点整備の計画検討 |
| 4. PPP/DBO/DB等対応人材育成 | ▶ 案件対応を通じた営業、設計要員の育成 |
| 5. M&A・アライアンスの推進 | ▶ 事業全般におけるM&A機会の探索 |
| 6. 海外関連会社の管理強化 | ▶ サウジアラビア事業からの撤退方針のもとで、リスク低減
を図る施策を実行 |

*既存納入顧客へのメンテナンスに即対応可能な技術サービス要員を配置した拠点

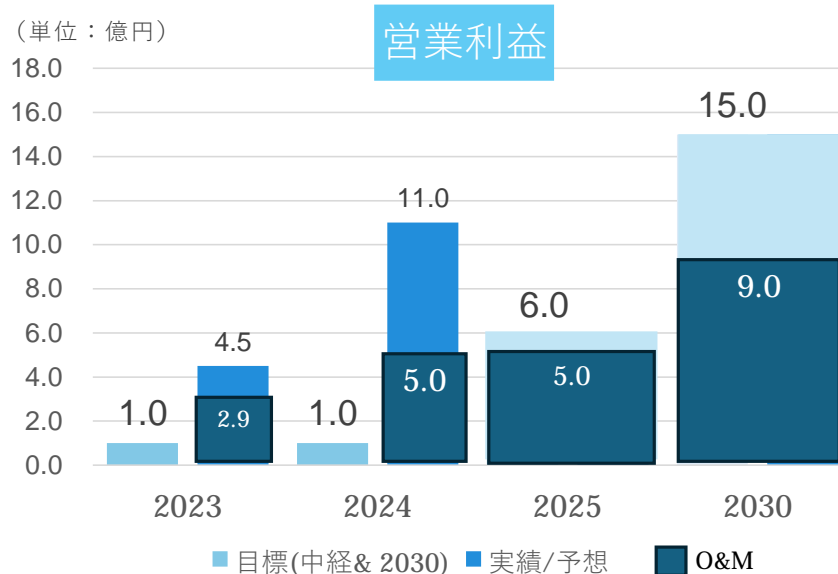
中期経営目標の進捗状況

- 2030年度までにO&M（メンテナンス（修繕）・運転管理）を中心とした事業拡大を推進中。
- 2024年度においては、プラント建設工事での大型案件での出来高増加が見込まれ、増収増益を見込む。
- 2025年度までにO&Mでの収益基盤を構築し、2030年度に売上高150億円、営業利益9億円を目指す。
- 現行中経期間中において、O&Mで安定収益源を確立しつつ、プラント建設工事での収益維持を図ることにより、2030年度において連結売上高300億円、営業利益15億円の達成へ向けて、諸課題に取り組んでまいります。

(単位：億円)



(単位：億円)



ご清聴ありがとうございました。

Appendix

会社概要(2024年3月31日現在)

社名

水道機工株式会社

創業

1924年8月

創立

1936年1月

資本金

19億47百万円

従業員数

581名(連結)

代表者

代表取締役社長 古川 徹

本社

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘5-48-16

主要株主

東レ、MSIPクライアントセキュリティーズ、データベース、電業社機械製作所等

子会社

株式会社水機テクノス、山田設備機工株式会社

連結業績推移

(単位：百万円)	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3 (予想)
売上高	15,873	15,397	16,244	17,715	18,296	21,035	25,166	22,662	21,929	21,634	27,350
売上総利益	3,278	3,438	3,634	3,591	3,666	4,094	4,658	4,346	4,247	4,363	-
販売費及び一般管理費	2,122	2,219	2,428	2,577	2,610	2,814	3,132	3,276	3,485	3,913	-
営業利益	1,155	1,218	1,206	1,013	1,055	1,280	1,516	1,070	761	450	1,100
経常利益	1,251	1,197	1,177	945	910	53	1,531	163	409	661	1,100
特別利益	-	378	-	-	53	53	132	-	14	-	-
特別損失	21	12	15	-	-	1,400	835	-	-	-	-
税金等調整前 当期純利益上高	1,229	1,564	1,161	945	963	-1,292	828	163	423	661	1,100
親会社株主に帰属する 当期純利益	738	1,662	744	563	589	-1,725	807	39	273	367	700

連結貸借対照表／連結キャッシュ・フロー計算書

貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2023/3	2024/3	増減
流動資産	15,046	17,679	+2,633
固定資産	6,155	6,458	+303
有形固定資産	2,055	2,070	+15
無形固定資産	210	266	+55
投資その他資産	3,889	4,121	+231
資産合計	21,201	24,138	+2,936

負債

負債	2023/3	2024/3	増減
流動負債	7,258	10,564	+3,305
固定負債	4,230	3,583	-646
負債合計	11,488	14,147	+2,658

純資産

純資産	2023/3	2024/3	増減
純資産合計	9,713	9,991	+277
自己資本比率	45.8%	41.4%	-4.4 p

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書	2022/3	2023/3	2024/3
営業活動によるCF	1,633	-593	-2,045
投資活動によるCF	-247	-1,033	-845
財務活動によるCF	-769	-269	1,257
現金及び現金同等物期末残高	5,448	3,559	1,942

弊社**IR**問い合わせ窓口：管理・コンプライアンス本部 経理部

問い合わせURL：<https://www.suiki.co.jp/contact/contact.php>

ディスクレーマー

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。